

令和 8 年度

「運営に関する計画」

中間評価



大阪市立鶴見橋中学校

令和 8 年 10 月

■ 学校ビジョン(目指す学校像)

「いのちをたいせつにし、ともにまなび、ともにそだち、

じぶんの未来をじぶんでひらく」

■ 4つの教育理念:4つのT(TRY・TRUST・TREASURE・THRIVE)

本校では子ども一人ひとりの安心と成長を支えるため、2020年よりポジティブ行動支援(PBS)の考え方を基盤に、望ましい行動を具体的に示し、認め、拡げる教育実践を継続してきた。その中で、生徒の行動指針として示してきたのが、つぎの3つのTである。

3つのTとは、

- TRY(取り組む)
- TRUST(つながる)
- TREASURE(大切にする)

これらの行動指針は、挑戦を促し、関係性を育み、自他や学び・環境を尊重する姿勢を学校全体で共有するための共通言語として機能してきた。これらの実践は、人権教育、探究的な学び、まなび庭の実践等とも結びつき、生徒の「学びに向かう力」や「人間性の育成」に対して、小さな成果が見られている。

これまでの実践を通して、「望ましい行動を身につける」段階から、「自らをより高め、学び続ける」段階へと発展させる必要性が明確になってきた。

そこで、従来の3Tの実践を土台として成長と深化の視点を明確にするため、2026年度より、新たなTの視点を導入し、4Tとして再構成する。

- THRIVE(高めあう)

THRIVEとは、変化を楽しみ、しなやかに成長しつづける力を育むことを目指す。結果にとらわれることなく、いかなる困難にも粘り強く向き合い自分の力で考え、行動する。しなやかさ・未来志向・希望をもって、自らの学びと行動を更新しつづけていく姿勢を意味する。この力は、本校が2026年度より進めていく、メタ認知能力の育成、探究的学習、カリキュラム・マネジメントの推進と連動するものであり、次期学習指導要領が重視する「学びに向かう力・人間性等」の育成にも資するものである。以上のことから、4Tを本校における行動支援、人権教育、探究的学びを統合する学校共通の成長指針として位置付けていく。

現状と課題

1. 現状

本校における令和7年度の長期欠席率は31.4%であり、大阪市平均と比較して増加傾向にある。一方、不登校率は11.6%であり、大阪市平均水準と同程度の割合であり、依然として重要な教育課題の一つである。日々の教職員による丁寧な関わりが、不登校率の抑制につながっていると考えられるが、長期欠席の背景にある多様な要因への組織的対応が求められている。

教室での活動に困難さを抱える生徒が校内で安心して過ごせる居場所としてスモールステップルーム（SSR）を整備した。現在、効果的な活用方法や利用計画について教職員間で共通理解を図り、多様な背景をもつ生徒への支援体制の充実を進めている。

人権教育については、これまで継続してきた取組の成果が生徒アンケートにも表れており、「いのちや人権の尊さについて考えたことがある」と肯定的に回答した生徒は96%（R7）と高い水準にある。「いのち」や「つながり」を基盤とした教育活動は、本校の大きな強みである。

一方、全国学力・学習状況調査等の結果からは、学習への興味・関心は高いものの、それが十分に学力向上へ結びついていない状況が見られる。基礎学力の確実な定着と、思考力・判断力・表現力を含む応用力の育成が課題である。

また、教職員の時間外勤務時間は改善傾向にあり、大阪市平均と比較しても優位な状況にある。働き方改革の成果を維持しながら、質の高い教育実践を持続可能な形で推進する基盤が整いつつある。

2. 課題

（1）不登校・長期欠席の未然防止と早期支援

SSRの活用をさらに体系化し、個々の状況に応じた支援の質を高める必要がある。関係機関との連携を強化し、校内外で切れ目のない支援体制を構築するとともに、未然防止の視点から学級経営・授業改善を一層推進する。

（2）学力向上と学びに向かう力の育成

家庭学習の充実を図り、学びの基本的な生活習慣を生徒・保護者・教職員が一体となって支える風土づくりを進める。また、メタ認知能力向上の取組を通して、生徒が自ら目標を設定し、成長を記録・振り返る仕組みを定着させる。学力のみならず、「学びに向かう力」を育成し、自己調整力の向上を目指す。

（3）教員の資質向上と組織力の強化

「誰ひとり取り残さない学びの学校」を実現するため、計画的な校内研修を実施し、教職員が学び続ける組織文化を醸成する。教育課程柔軟化サキドリ研究校としての研究推進を通じて、カリキュラム・マネジメントの充実を図り、教育実践の質を高める。

目指す学校像

「いのちをたいせつにし、ともにまなび、ともにそだち、

じぶんの未来をじぶんでひらく」

生徒も教職員もワクワクしながら、多様性を認め合い、支え合い、安心して、挑戦できる学校づくりを推進する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和 11 年度末の校内調査において「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を87%以上にする。

○令和 11 年度末の校内調査において「自分には良いところがありますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合を 88%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和 11 年度の全国学力・学習状況調査における学力に課題の見られる生徒の割合の全国との差を全国水準とする。※ 1

○令和 11 年度の全国体力、運動能力・運動習慣調査における体力合計点について、対全国比平均以上とする。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和 11 年度末の校内調査において「学習者用端末を活用して、単に調べるだけでなく、課題を解決するために情報を収集・整合し、まとめ・表現する取組をしていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%とする。

○教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を 30 時間以下とする。

※1：・全国（大阪府）の児童（生徒）の学力状況から、学力の高い順に 25%区切りで、区分Ⅰ、区分Ⅱ、区分Ⅲ、区分Ⅳの4つに分けたとき、区分Ⅱと区分Ⅲの児童（生徒）の学力の変化率を「ボリュームゾーンにあたる層の変化率」とした。

・学力の変化率は、 $(\text{小6(中3)の平均標準化得点} - \text{小3(中1)の平均標準化得点}) \div \text{小3(中1)の平均標準化得点} \times 100$ で算出する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- 年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を82%以上(R7 78.9%)にする。
- 年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査における不登校生徒の在籍比率を前年度(R7 11.6%)より減少させる。
- 生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を59%以上(R7 56%)にする。
- 年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上(R7 76.7%)にする。
- 年度目標アンケートにおける「いろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 中学生チャレンジテストにおける、国語の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
(【現2年】R7 1年 63% 【現3年】R6 1年 65% R7 2年 68%)
- 中学生チャレンジテストにおける、数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
(【現2年】R7 1年 61% 【現3年】R6 1年 53% R7 2年 51%)
- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を30%以上(R7 28.9%)にする。
- 年度目標アンケートにおける「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「理科の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する生徒の割合を75%以上(R7 72.2%)にする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

○年度末の校内調査における「授業(タブドリ学習時間も含む)で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上回答する生徒の割合を75%以上にする。

○年度末の校内調査における「学習者用端末を活用して、(タブドリ学習時間も含む)自分のペースで理解しながら学習を進めていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。

○年度目標アンケートにおける「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を75%以上にする。

○「学校園における働き方改革推進プラン【2026-2029】」に掲げる、教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月30時間以下とする。

○「学校園における働き方改革推進プラン【2026-2029】」に掲げる、時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。

○年度目標アンケートにおける「学校図書館や学級文庫、読書コーナーなど、学校内にあなたの読みたい本がありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式2)

大阪市立鶴見橋中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標Ⅰ 安全・安心な教育の推進】 ○年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を82%以上(R7 78.9%)にする。 ○年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 ○年度末の校内調査における不登校生徒の在籍比率を前年度(R7 11.6%)より減少させる。 ○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を59%以上(R7 56%)にする。 ○年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上(R7 76.7%)にする。 ○年度目標アンケートにおける「いろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切に、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向Ⅰ 安全・安心な教育環境の実現】生活指導部 ○5月、7月、12月、2月に全校生徒に向けていじめのアンケートを実施し、いじめについての調査を行う。 ○年に1度、全校生徒に向けて「いじめについて考える日」を実施し、いじめは絶対にしてはいけないことを再認識させる。 ○生徒が学習端末を使用し、毎日登校した際に「心の天気」を入力することを徹底することで、日々の些細な変化に気づくことができるようにする。	A
指標 ○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合、75%以上(R7年度 73%)にする。 ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上(R7年度 78%)にする。	
取組内容②【基本的な方向Ⅰ 安全・安心な教育環境の実現】生活指導部 ○外部講師からの遅刻不登校生徒に対する具体的なアドバイスを聞き、実践する。 ○不登校生徒が活用しやすいようにスタディールームを整備し、活動や取り組みを行う。	A
指標 ○年度末の校内調査における不登校生徒の在籍比率を前年度(R7 不登校 11.5%)より減少させる。	

取組内容③【基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の実現】健康教育部 ○「いのちの学校」を目標に掲げ、生徒向けの授業が展開できるよう学年ごとにカリキュラムを作成し、授業力向上の研修を図る。	A
指標 ○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向２ 豊かな心の育成】人権教育主担 ○自尊感情を高め、道徳心・社会性を育成するための人権に関する取組を、学校全体として年３回(平和登校日・人権集会・人権作文発表会)以上実施する。	A
指標 ○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。(R7 96%)	
取組内容⑤【基本的な方向３ 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】人権教育主担 ○自分たちの地域や将来について考える取組を、地域の方と学校が連携して毎週 1 回(火・木)以上実施する。	C
指標 ○生徒対象のアンケートで、「将来の進路や生き方について考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 80%以上にする。(R7 79%)	
取組内容⑥【基本的な方向２ 豊かな心の育成】(ユネスコC) ○週 1 回、ユネスコタイム(朝鮮問題研究会・多文化学級・同和教育・支援教育)に取り組み、国際理解教育を深め、国際社会を生き抜く力を育む。	B
指標 ○生徒対象のアンケートで、「様々な国や文化について学んだことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 80%以上にする。(R7 85%)	
取組内容⑦【基本的な方向２ 豊かな心の育成】支援教育C ○支援教育に関する校内研修を年 1 回以上実施する。 ○支援教育の巡回指導を年 1 回以上活用し、個別の支援内容の共有を図る。	B
指標 ○生徒対象のアンケートの「学校の授業は、わかりやすい。」について肯定的な回答の割合を 75%以上にする。(R7 73%) ○保護者対象のアンケートの「学校は、学習のつまずきによく対処してくれている。」について、肯定的な回答の割合を 90%以上にする。(R7 93%)	
取組内容⑧【基本的な方向２ 豊かな心の育成】エビデンス学校改革 ○学校規模ポジティブ行動支援の考えに基づき、目ざすべき生徒像「鶴見橋中 4 つの T」を基盤に、生徒及び教員へのフィードバックを行う。	B
指標 ○生徒対象のアンケートの「学校に行くのが楽しい」について肯定的な回答の割合を 75%以上にする。(R7 73%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① アンケート結果で「学校に行くのが楽しい」の肯定的割合が78.6%、「いじめはいけない」は81%であった。日々の様子を見ていると、何かあれば声をかけてほしい、聞いてほしいという生徒がたくさんいるので、引き続きしっかり子どもたちと関わり、見ていきたい。 取組内容② 昨年度は、不登校の在籍率が11.5%だったが、今年度1学期は6.7%であった。この結果は、取組内容①と関係していると思うが学校に行きたいと思えるような安心、安全な学校環境を引き続き整えていきたい。 取組内容③ アンケート結果で「いのちや人権の尊さについて考えたことがある」の肯定的な回答の割合が95.2%であった。避難訓練やLGBTQ+研修などを通して命や人権について考える機会を設けることができた。 取組内容④ アンケート結果において95.1%の生徒が肯定的に答えていた。UT、平和人権登校日、集中実践を通して人権について考える機会を設けることができた。 取組内容⑤ アンケート結果において75%の生徒が肯定的に答えていた。2学期以降の進路学習や出前授業を通してさらに将来の進路や生き方を意識しながら学校生活を送ることができるようにしていく。 取組内容⑥ アンケート結果において、94.2%の生徒が肯定的に答えていた。2学期以降もユネスコタイムを通じて、国際社会を生き抜く力を養っていく。 取組内容⑦ 巡回指導を1学期に利用して2学期も利用する。支援内容を全体に共有する。また生徒対象のアンケートの「学校の授業は、わかりやすい。」について肯定的な回答の割合を82%だった。2学期以降も授業以外の面でも支援したいと思う。 取組内容⑧ 生徒対象のアンケートの「学校に行くのが楽しい」について肯定的な回答の割合が7月実施のアンケートで3年76.7%、2年70.3%、1年88.9%であった。鶴見橋中学校の4つのTを踏まえて、ポジティブな声掛けを継続していく。
次年度への改善点

大阪市立鶴見橋中学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した (4 回以上)	B: 目標どおりに達成した (3 回)
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった ()	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○中学生チャレンジテストにおける、国語の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。 (【現 2 年】R 7 1 年 63% 【現 3 年】R 6 1 年 65% R 7 2 年 68%) ○中学生チャレンジテストにおける、数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。 (【現 2 年】R 7 1 年 61% 【現 3 年】R 6 1 年 53% R 7 2 年 51%) ○大阪市英語力調査における CEFR AI レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 30% 以上 (R 7 28.9%) にする。 ○年度目標アンケートにおける「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70% 以上にする。 ○年度目標アンケートにおける「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70% 以上にする。 ○年度目標アンケートにおける「理科の勉強は好きですか。」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 75% 以上 (R 7 72.2%) にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない 学力の向上】国語科 ○既習範囲も含めた反復学習により、基本的事項の定着を図る。 ○読解力向上教材や新聞等を活用し、言語能力の向上を図る。 ○生徒が主体的に ICT を活用した授業へ取り組む。	B
指標 ○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70% 以上にする。(R 7 70.1%) ○定期テストの漢字の設問における正答の割合を 45% 以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない 学力の向上】数学科 ○数学科の授業において反復演習により、基本的事項の定着を図る。 ○生徒が主体的に ICT を活用した授業へ取り組む。	A
指標 ○生徒対象のアンケートで「数学の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の	

割合を 71%以上にする。(R7 70.1%)(R8 84.5%) ○生徒対象のアンケートで「数学の授業は楽しい」に対する肯定的に回答する生徒の割合を 73%以上にする。(R7 72.4%)(R8 83.2%)	
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】英語科 ○GTEC を実施する。また、それらの取組の対策を実施し、基礎学力の向上を図る。 ○主体的に授業に取り組むことができるよう ICT を活用する。 指標 ○大阪市英語力調査 CEFR AI レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 30%以上(R7 28.9%)にする。 ○生徒対象のアンケートで「英語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 65%以上にする。(R7 60.9%)	B
取組内容④【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】校内研修主导 ○すべての教職員が年 1 回以上の研究授業を行い、相互参観、指導助言をすることで授業力向上を図り、生徒がわかりやすい授業を目指す。 指標 ○生徒対象アンケートの、「授業はわかる」に対する肯定的回答の全教科の平均を 85%以上にする。(R7 83%)	B
取組内容⑤【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】学力向上推進担当 ○朝の学習、モジュール授業、放課後学習に全校で取組み、学習習慣を身につけさせ、基礎的学力を向上させる。 指標 ○チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 (R6 年度 2 年 73.0%) → (R7 年度 3 年 70.5%) (R6 年度 1 年 60.6%) → (R7 年度 2 年 68.6%) (R7 年度 1 年 63.0%)	B
取組内容⑥【基本的な方向 5 健やかな体の育成】1 年 2 年 3 年学年主任 ○縦割りで行う球技大会をはじめとして、各学年で 3 時間以上の体育的行事に取り組む。 指標 ○生徒対象アンケートの、「運動やスポーツすることが好きである」に対する肯定的回答の全教科の平均を 85%以上にする。(R7 81%)	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

7月実施の生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答した割合は1年生76.7%、2年生84.6%、3年生90.5%で目標値を上回っている。一方、定期テストの漢字に関する問題の正答率は1年生で47%、2年生で32.8%、3年生で52.5%で全体では44%と目標をやや下回っている。反復練習を継続するとともに、基礎学力の土台としての漢字（語彙）力の向上に向けて指導を行っていく。

取組内容②

7月実施の生徒対象アンケートで「数学の授業はわかる」に対して肯定的に回答した割合は1年生93.3%、2年生80.8%、3年生76.2%であった。また、「数学の授業は楽しい」に対して肯定的に回答した割合は1年生90.0%、2年生80.8%、3年生76.2%であった。2つのアンケート結果を見ても、「わかること」と「楽しい」は強い相関関係がある。今後も、生徒がわかる授業を展開し、数学における土台となる計算力の向上に重点を置いて指導していく。

取組内容③

GTECに関しては10月中旬に実施予定である。生徒対象のアンケートで「英語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒アンケートが7月実施分で1年生86.7%、2年生88.4%、3年生59.2%であった。3年生の授業では入試に向けてよりわかる授業を展開できるように英単語力の向上に向けて指導を行っていく。

取組内容④

学期に一回、校内授業研究会を行い、教員の授業に対する意見交流を行った。11月には研究授業推進期間を設けて、相互参観、意見交流を行うことによって授業力向上を図っていく。生徒アンケートにおける「授業はわかる」に対し肯定的に回答する割合は、全学年で82.2%を目標値をわずかに下回っている。

取組内容⑤

チャレンジテストに関しては、3年生が9月に実施済み、1、2年生は来年1月に実施予定である。チャレンジテストに向けて朝のタブレット学習の継続、ならびにモジュール授業では短時間で生徒が集中し、学習に取り組むことができるように工夫を行っていく。

取組内容⑥

7月に実施した生徒対象のアンケートにおいて、「運動やスポーツすることが好きである」という質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は1年生85.2%、2年生70.4%、3年生76.6%であった。各学年の取組として、1年生では、1学期末に実行委員を募り、ドッジボールや全員での鬼ごっこ、リレーなどの学年レクを実施した。2年生では、1学期末に学級代表が中心となり、ボールを使ったゲームやリレー、ドッジボールを学年レクで実施した。3年生ではまだ取り組めていないが、今後実施する予定である。今後も生徒が主体的に運動に取り組む機会を設け、運動の楽しさや達成感を味わうことができるよう、各学年で工夫しながら企画・運営・指導を行っていく。

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立鶴見橋中学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○年度末の校内調査における「授業(タブドリ学習時間も含む)で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上回答する生徒の割合を75%以上にする。 ○年度末の校内調査における「学習者用端末を活用して、(タブドリ学習時間含む)自分のペースで理解しながら学習を進めていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。 ○年度目標アンケートにおける「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を75%以上にする。 ○「学校園における働き方改革推進プラン【2026-2029】」に掲げる、教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月30時間以下とする。 ○「学校園における働き方改革推進プラン【2026-2029】」に掲げる、時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。 ○年度目標アンケートにおける「学校図書館や学級文庫、読書コーナーなど、学校内にあなたの読みたい本がありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 校内研修主担・教務部 ICT 担当 ○校内研修支援事業を活用し、全教科で生徒が主体的に ICT を活用した研究授業を年間1回以上実施する。	B
指標 ○教職員対象のアンケートの「少人数授業(分割授業など)の導入など指導方法の工夫・改善に努めている。」について肯定的な回答の割合を80%以上にする。 (R7 87%) (R8 100%)	
取組内容②【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】教務主任 ○各種学力調査データを教科担当が分析し、PDCA サイクルを回す。	B
指標 ○教職員対象のアンケートの「学習指導、生徒指導等の改善にデータを活用している」について肯定的な回答の割合を100%にする。(R7 100%)	
取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】管理職 ○サポーターを組織的に活用し、教職員が子どもたちに向き合う時間を確保する。	C
指標 ○教員1か月あたりの平均時間外勤務時間を月30時間以下にする。	

取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】管理職 ○教職員・サポーターを組織的に活用し、ホームページの更新を行う。 指標 ○学校ホームページへのアクセス数について、昨年度実績（R7 35774 件）を上回る。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 教職員アンケートの「少人数授業（分割授業など）の導入など指導方法の工夫・改善に努めている。」について肯定的な回答の割合が7月実施のアンケートでは、100%であった。モジュール授業の導入により、学習指導におけるICTの活用や、授業構成の工夫が行われている。11月4日～18日を研究授業推進期間としている。 取組内容② 教職員対象のアンケートの「学習指導、生徒指導等の改善にデータを活用している」について肯定的な回答が7月実施のアンケートで95.9%であった。エビデンスをもとに学習指導ならびに生徒指導を行うことができるようにデータを提供していく。 取組内容③ 教員1か月あたりの平均時間外勤務時間は、4月（35時間17分）、5月（31時間04分）、6月（29時間30分）、7月（34時間54分）、である。部活動指導（土日祝）が主な時間外勤務である。授業準備や印刷等について、サポーターを組織的に活用することができている。今年度から導入しているきずな時間（昼食後の20分）において、教職員が子どもたちに向き合う時間を確保できている。 取組内容④ 教職員・サポーターを組織的に活用し、ホームページの更新を行っており、10月8日（木）時点でのアクセス数は、60,141件であり、昨年度を大きく上回っている。教育課程柔軟化サキドリ研究校として注目されている。昨年度7月から生徒の写真を撮影する機器が学校保有の機器のみとなり、写真の撮影が難しい状況ではあるが、随時更新作業を行っている。	
次年度への改善点	

大阪市立鶴見橋中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容【各教科】 【国語】国語科 ○基礎的な語彙力の向上のために、毎回の授業で漢字テストを行う。 ○新聞や読解力向上教材を活用し、言語能力の向上を図る。 ○ICTを活用し、自主学習の教材を充実させて、表現力や判断力の向上を図る。	B
指標 ○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。(R7 70.1%)	
【社会】社会科 ○ICTを活用し、多くの資料を提示することで理解しやすい授業を行う。 ○授業の最初に「最近のニュース」の動画を流し、世界や日本の出来事に対する興味関心を向上させる	B
指標 ○学校評価「生徒アンケート」における「社会の授業はわかりやすい」の設問について、すべての学年における肯定的平均回答率を75%以上にする。(R7 74.7%)	
【数学】数学科 ○ICTを活用し、数学への興味・関心を高める。 ○基本的事項の習得に向けて、プリントなどを活用し反復して演習を行う。	A
指標 ○生徒対象のアンケートで「数学の授業はわかる」に対する肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。(R7 70.1%) (R8 84.5%) ○生徒対象のアンケートで「数学の授業は楽しい」に対する肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。(R7 72.4%) (R8 83.2%)	
【理科】理科 ○実験や観察などの体験的な授業を積極的に行い、基礎知識や実験技能の向上を図る。 ○スライドやデジタル教科書などの視覚教材を活用し、基礎知識の向上を図る。 ○夏の自由研究やパソコンを用いた調べ学習など学習を深める取り組みを行い、思考力や判断力、表現力の向上を図る。	B
指標 ○生徒対象のアンケートで「理科の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。	
【英語】英語科 ○ICTを活用し、音声による主体的で対話的な活動を設け、英語に対する興味・関心を高める。 ○語彙力と文法力を高め、英文を早く正確に読む思考力・判断力をつける。	B

指標 ○生徒対象のアンケートで「英語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 61%以上にする。(R7 60.9%)	
【音楽】音楽科 ○デジタル教科書等の ICT を活用し、音楽に対する興味・関心・意欲を高める。 ○楽曲理解を深める活動を行うことで、個々の思考力・判断力を育て、考えたことが表現力を高めることに繋がる授業計画を実施する。	A
指標 ○生徒対象のアンケートで「音楽の授業はわかる」の設問について、すべての学年・教科における肯定的平均回答率を 80%以上にする。(R7 80.4%)	
【美術】美術科 ○グループワークや発表の機会を設け、主体的・対話的な授業をめざす。 ○ICT 機器の活用や鑑賞の授業を充実させ、生徒の興味・関心を高め、美術活動に対する意欲を伸ばす。	B
指標 ○各単元にて 1 回以上、グループワークや発表を行う。 ○生徒対象のアンケートで「美術の授業はわかる」に対して、肯定的平均回答率を 80%以上にする。(R7 78.2%)	
【保健体育】保健体育科 ○体づくり運動を体育の授業で毎時間、継続的に取り組むことで、基礎体力の向上を図る。 ○週に 1 回以上、試合で仲間と共に考え、協力して取り組める機会を作る。 ○生徒が安全に取り組めるように、準備運動を毎時間徹底し、学習環境の整備をする。	B
指標 ○興味・関心・意欲の向上に対する肯定的な回答を 90%以上にする。 (R7 男 94.4%、女 87.9%) ○「授業の内容が分かるようになっていきますか」に対する肯定的な回答を 85%以上にする。(R7 83.9%)	
【技術家庭】技術科家庭科 ○情報モラルや情報リテラシーについて取り組む。 ○家庭生活の衣食住について興味を持ち、家族と話せるように取り組む。 ○SDGs のエネルギー分野での知識を深める。	B
指標 ○「授業内容が分かる」の回答を 70%以上にする。 【R7 77.6%】(技術科 75.9%、家庭科 79.3%)	

	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
国語	○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒は3学年平均で83.1%であった。昨年度に比べ10%以上の上昇がみられるのは習熟度別授業の成果であると考えられる。しかしテスト等の達成度では依然として課題がみられるため、漢字テストの継続及び反復練習などを実施し、基礎学力の定着を図っていく。 ○今後もICTを活用し多くの資料を提示するとともに、自主学習の教材や表現の課題に取り組む機会を増やし、表現力や判断力の向上を図っていく。
社会	○生徒対象のアンケートで「社会の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒は3学年平均で74.3%であった。 ○今後もICTを活用し、多くの資料を提示しながらわかりやすい授業を展開していく。
数学	○生徒対象アンケートにおいて「数学の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒は3学年平均で84.5%であった。 昨年度に比べ、10%以上も上がっているのは、習熟度別授業の成果でもあると思うので、年度末まで、状態を維持できるように指導していく。 ○今後もグラフ等ICTを用いた授業を展開し、わかる授業を展開していく。
理科	○生徒対象のアンケートにおいて、「理科の学習はわかる」という質問に対して肯定的に回答した生徒の割合は、1年93.3%、2年88.5%、3年81.0%であり、3学年平均では87.6%であった。 ○生徒たちが自然現象を実感できるよう、実験や観察等を積極的に取り入れた授業を行うことができた。教室での授業においても、映像を活用したり、演示実験を行ったりすることで、自然現象を具体的に捉えられるよう工夫した。今後も、生徒が自然現象に興味・関心をもち、主体的に学習できるよう、工夫しながら指導していく。
英語	○生徒対象のアンケートで「英語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒アンケートが7月実施分で1年生86.7%、2年生88.4%、3年生59.2%であった。 ○全学年ICTを活用した授業を展開し、引き続きわかる授業を意識して指導を行っていく。
音楽	○生徒対象のアンケートにおいて「音楽の学習はわかる」という質問に対して肯定的に回答する生徒の割合は、1年90.0%、2年92.3%、3年81.0%であり、3学年平均では87.6%であった。 ○今後もICTを活用し、音楽に対する興味・関心・意欲を高める授業を行っていく。
美術	○生徒対象のアンケートにおいて「美術の学習はわかる」という質問に対して肯定的に回答する生徒の割合は、1年90.0%、2年80.3%、3年90.5%であり、3学年平均では87.0%であった。 ○修了している単元については、グループワークや相互鑑賞を行い、生徒間で交流のある授業を実施できた。
保健 体育	○興味・関心・意欲の向上に対する肯定的な回答は87.6%で目標の90%には届かなかった。今後は教科で創意工夫を図り、数値の向上に向けて実践していく。 ○「授業の内容が分かるようになっていきますか」に対する肯定的な回答92.7%で目標の85%を達成することができた。今後も継続して取り組む。
技術 家庭	○生徒対象のアンケートで「授業はわかる」の設問について、すべての学年で肯定的平均回答率は85.1%であった。（技術科83.1%、家庭科87.0%） ○調理実習や朝ごはんの取組など、創意工夫できる課題を実施することができた。 ○ICTを活用した授業を展開し、引き続きわかりやすい授業を実施する。